

OECD-FAO Agricultural Outlook 2007-2016

Summary in Japanese

OECD-FAO 農業アウトルック 2007-2016

日本語要約

- 現在、国際貿易で多くの農業一次産品の世界市場価格が堅調に推移しているのは、主に、干ばつによる供給不足などの一時的な要因や在庫の減少によるものである。しかし、バイオ燃料生産向け原材料の需要増などの構造変化や過去の政策改革による余剰生産物の削減を背景に、今後 10 年間は価格が歴史的な均衡水準を上回り続ける可能性がある。
- 一次産品価格の上昇は、純食糧輸入国の開発途上国や都市部の貧困層にとって大きな懸念材料となっており、「食糧か燃料か」という問題に関する継続的な論争を呼び起こすだろう。さらに、バイオ燃料原材料の価格上昇は、こうした原材料の生産者の所得を下支えする一方、家畜飼料として同じ原材料を使用する生産者にとってはコストの上昇と所得の低下を意味する。
- 世界市場価格が底上げされているとの観測から、価格支持をやめるための一段の政策改革の一助となる可能性がある。そうなれば、国境保護の必要性が低下するとともに、当該国政府は柔軟に関税を引き下げられるようになるだろう。
- 今回の予測を立てる上で重視した要素の一つは、急成長しているバイオ燃料産業のニーズを満たすための穀物、砂糖、脂肪種子、植物油の利用増加である。本アウトルックが予測している期間に、米国ではトウモロコシ、EU では小麦と菜種、ブラジルでは砂糖が、エタノールとバイオディーゼルの生産のために大量に使用されるだろう。これらが穀物価格を、また飼料コストの上昇を通じて間接的に家畜製品価格も下支えしている。
- 大半の温帯国では、エタノールとバイオディーゼルの生産は支援なしでは経済的に採算が取れないので、本アウトルックでの想定とは異なる生産技術、バイオ燃料政策、原油価格を組み合わせることにより、価格は本アウトルックで予測されている水準を下回る可能性がある。
- 多くの開発途上国や新興経済国で食料需要が想定どおりに急増すれば、輸入の拡大に拍車がかかるとともに、国内生産能力の構築にも弾みがつく。その結果、OECD 諸国は全体として非 OECD 諸国に対し、予測期間に多くの一次産品で生産と輸出のシェアを落とすものと予想される。
- 世界の輸入を基準にして分析すると、本書で取り上げた全ての一次産品に関して、例外なく世界貿易の伸びが見込まれる。2016 年には、世界貿易は 2001～2005 年の平均に比べ、脱脂粉乳については微増（7%）にとどまり、粗粒穀物と小麦もそれぞれ 13～

17%増となるが、牛肉、豚肉、全脂粉乳については 50%強の伸び、植物油については約 70%の伸びとなる。

- 植物油を除く全ての農産物について、輸入の伸びは開発途上国が OECD 諸国を上回る。また、小麦と粗粒穀物以外の全ての農作物について、これらの成長市場はますます他の開発途上国からの輸出の増加によって満たされる。したがって、農産物の世界市場は南南貿易の拡大と OECD 域内の輸出国にとっての競争激化によって特徴付けられる。
- 輸出市場ではアルゼンチンとブラジルが驚異的にプレゼンスを強めている。ブラジルの伸びは主に砂糖、脂肪種子、食肉に集中しているが、アルゼンチンは穀物や多くの乳製品も輸出している。輸出を伸ばしているその他の開発途上国や移行経済国としては、粗粒穀物のロシアとウクライナ、コメのベトナムとタイ、植物油のインドネシアとタイ、鶏肉のタイ、マレーシア、インド、中国などが挙げられる。
- 輸入が伸びている諸国に一層の広がりが見られる。しかし、脂肪種子と脂肪種子製品の輸入では中国のシェアが他を圧倒している。2016 年には、中国は脂肪種子粗挽き粉の世界最大の輸入国となっており、油脂と脂肪種子の輸入ではトップの座をさらに固めているだろう。脂肪種子製品については、中国の世界輸入に占めるシェアはほぼ 50%まで上昇しているものと予想される。

© OECD/FAO 2007

本要約は OECD の公式翻訳ではありません。

本要約の転載は、OECD の著作権と原書名を明記することを条件に許可されます。

多言語版要約は、英語とフランス語で発表された OECD 出版物の抄録を翻訳したものです。

OECDオンラインブックショップから無料で入手できます。 www.oecd.org/bookshop/

お問い合わせは、OECD 広報局版權・翻訳部にお願いいたします
rights@oecd.org

fax: +33 (0)1 45 24 99 30

OECD Rights and Translation unit (PAC)
2 rue André-Pascal, 75116
Paris, France

Visit our website www.oecd.org/rights/

